

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	7	シスプラチン投与時のshort hydrationは推奨されるか？
P	シスプラチン投与時は、腎毒性を軽減するために2,500ml以上の補液を10時間以上かけて投与することが添付文書に記載されている。しかし、腎毒性の発現率を増加させることなく、少量の輸液(short hydration)を短時間で投与した報告があり、推奨できるか検討する。	
I	short hydration法でシスプラチン投与を実施した患者	
C	大量補液投与時の腎機能障害発現率と比較	
臨床的文脈		治療
O1	投与前後の血清Cr値の上昇、クレアチンクリアランスの減少から判定した腎機能障害	
非直接性のまとめ	介入の比較がすべて非直接性。	
バイアスリスクのまとめ	単施設での観察研究が多いが、腎障害経過後の経過を追跡した文献もあり、バイアスリスクは少ないと判断できる	
非一貫性その他のまとめ	研究間で結論に一貫性がある	
コメント		
O2		
O3		